

学校探検 10

みんなで気づかい 思いやる

城崎小学校 (城崎)

案内者 大西 翔太郎しょうたろうくん



城崎小学校は、城崎温泉街に位置し、周囲には旅館や土産物屋などが軒を連ねています。城崎地域はこれまでから一町一校制をとり、市立の幼稚園、小・中学校はそれぞれ城崎町全体を校区としています。城崎小学校では、現在195人の児童が学習に励んでいます。

この学校に通う大西翔太郎くん(6年)は児童会長で、所属する野球部ではキャプテンを務めるなど、児童たちの



▲城崎地域の子どもたちが、伸び伸びと学習している城崎小学校

リーダー的な存在です。将来はプロ野球選手になりたいという夢を持つ大西くんに、城崎小学校を紹介してもらいました。

城崎小学校の特徴は、学校の裏山に自然の地形を利用したスキー場があることです。冬には、体育の授業で低学年はソリを、高学年はスキーをして自然の中で体力づくりをしています。

僕の思い出に残っている学校の行事は、毎年11月に行う親子福祉体験参観日です。

この参観日は、僕たちと保護者と一緒に車椅子体験をします。僕は、この体験を通じて人を思いやるのが大切だと感じました。

その後、この体験を通じて僕たちにできることをしようと、児童会を中心に地域に呼

びかけ、2年前からプルタブ集めを始め、リサイクル活動をしています。

今ではアルミ缶も集めて、車椅子などの福祉用具と交換し、町内の福祉施設に寄付できるように頑張っています。

また、僕たちは、普段の生活でも城崎温泉の外湯に入ることが多く、学校以外の場所でも友達と友情を深めています。



▲親子福祉体験参観日では、車椅子体験を通じて思いやりの心を育んでいる

これからの目標は、「一日の始まりは、あいさつから」といわれているように、人と会った時は、元気よくあいさつすることです。そして、上級生として、下級生の手本になれるように頑張ります。

笑顔の輪

桜ジャムづくり

『専業農家グループ』(但東)

5月1日から3日にかけて、但東町特産物加工施設では、専業農家グループの皆さんによる、桜ジャムづくりが行われました。

平成2年から生産活動を続ける同グループのメンバーは、但東地域内に住む主婦3人ですが、桜ジャムづくりの最盛期を迎えると2人加わり、5人になります。

桜ジャムは、お湯や紅茶に溶かすと、器の中で桜の花びらがふわっと広がり、飲むとほのかな甘さと桜の香りが楽しめます。

作り方は、4〜5分咲きの八重桜の花びらを手作業で摘み取り、クエン酸・グラニュー糖・ペクチンを加えながら約20分間煮詰めていきます。やがて、淡いピンク色から鮮やかな紅色に変わっていきます。

よいジャムを作るポイントは、花びらの形を崩さないよう

うに、優しくかき混ぜながら短時間で煮詰めていくことです。

代表の滝本晴美さん(西谷地区在住)は「今年は4月が寒かったので、例年より1週間程度遅咲きでした。しかし、風が穏やかで花びらに傷みもなく、よいジャムが出来上がりました」と仕上がりに自信満々です。

今年は、90グラム入りの瓶2,000個を生産し、シルク温泉や但東地域内のイベント会場で販売されています。



▲専業農家グループの皆さん。ジャムの瓶詰め作業が手際よく行われた

